

I – 手口情報非公開の経緯

✓証券会社による手口情報の公開問題

✓東証手口情報の開示停止

✓学術研究者からの情報公開要請

✓開示しない理由

→プロvsアマなど、主体によって活用できる幅／深さが違う
(結果として不公平)

II – 株式売買情報の分析への取り組み

✓ 板情報の分析（MonexとCMDラボの人工知能学会向け共同研究）

✓ 顧客の売買傾向の分析

- 短期売買vs長期売買のパフォーマンス比較
- 今後は、従来とは違った新しいアプローチを取り入れていくことが重要：マネックス証券は、このような新しい研究を積極的に支援

✓ 情報を研究できる条件

→ 社内にプロップはもちろん、トレーディングデスクすらないこと

III –株式売買情報の分析の実用化に向けた課題

- ✓技術のfeedback（多岐に亘る）
- ✓顧客用の売買方法・ツール（アルゴなど）の開発
- ✓顧客の売買のクセの修正
- ✓実用化できる条件
 - プロップ／TDがないこと、加えてOpt Inする必要があると思われる

サマリー

- ✓最先端の分析を行い、活用することに大きな可能性を感じる
- ✓顧客のPropertyである売買データを、顧客の不利益にならないようにしっかりと守ることが最優先
- ✓「顧客の売買データが誰のために使われるのか」と云う点に配慮